

顎関節症

女性 30歳 主婦

主訴 顎関節の違和感、咬合痛、頸痛(両側)

現病歴 17~18歳の頃より顎関節の違和感があり、大きく口を開けられず、長く咬んだりもできない。最近奥歯を矯正している。また、季節の変わり目に蕁麻疹や鼻水、くしゃみなどアレルギー症状(花粉症も含めて)がしやすい。

所見 細緊やや数。胸鎖乳突筋緊張。火穴総て(+).

治療 脉状と火穴反応から典型的な自律神経失調症で、その処置と扁桃及び帯脈、それに次髎の灸頭鍼を加える。

経過 二回目(7日目)顎が大分良い。頸は2日目より特に左側がつっぱる。細が消失。緊も大分柔らぐ。扁桃、帯脈処置。

三回目(14日目)顎の痛みはなし。違和感は多少あり、頸は大分良い。細はなし。

四回目(38日目)顎の違和感がなく、すっきりする。

考察 顎関節を動かす筋肉や関節の機能的異常、顎の変形による形態的異常などをまとめて顎関節症と呼ばれています。

顎関節の大部分が顎を開閉する筋肉そのものの萎縮や癒着などの異常と、関節円板(軟骨)の異常といわれており、他に精神的ストレスなどでの筋肉の緊張などがあります。

彼女が悪くなった17~18歳ころというのは、大体すべての歯が永久歯に生え変わる時期で、おそらく歯と周囲の軟部組織、顎関節の調和がうまくいかず、それで歯並びが悪くなっていたと思われます。最近、奥歯を矯正して咬み合せをよくしても、顎関節の筋緊張や萎縮などの異常をとるまでいってなかったのではないのでしょうか。

彼女は脉状と火穴すべて(+)から、交感神経過緊張(長野治療システムでは神経・内分泌系)をときほぐす処置を施し、アレルギー症状があるので扁桃処置(免疫系)を行なう。そして、頸部から顎関節周囲の筋緊張を緩解させるために、帯脈(筋肉系)と、この3つの処置に絞ったわけです。

1回目の処置で血行が良くなり、細が消失し、筋緊張や自律神経も緩和されて、後は回を重ねるごとに良くなっていきました。この中でもキーポイントは帯脈で、丹念に時間をかけてやったのが効を奏したのでしょうか。